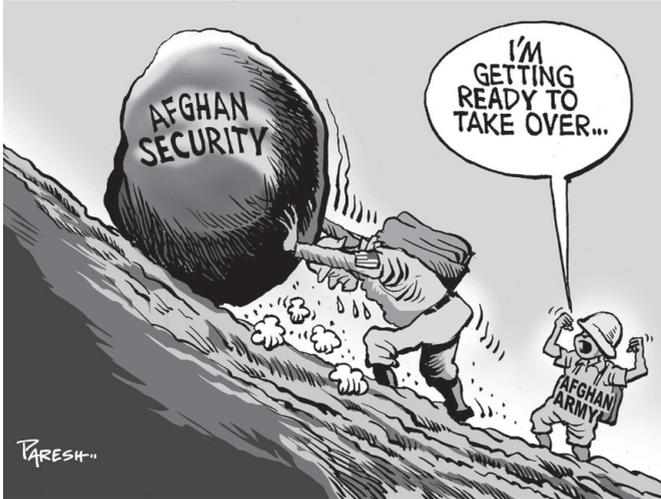


Cartoon says it all.

Security in Afghanistan by Paresh Nath,
The Khaleej Times, UAE
JULY 2, 2011

マンガをみれば世界がわかる

毎日新聞専門編集委員
西川恵



米軍がアフガンからの 一部撤退を開始

かつてソ連軍はアフガニスタンに一〇年間駐留し、同国の社会主義政権を支えた。しかし最後はゲリラとの戦いを持って余し撤退した。一九八九年のこと。三年後、勢いづいたゲリラの前に同政権はあつげなく倒れた。

アフガン駐留米軍の一部撤退が七月から始まった。約一〇万人の駐留軍のうち、来年夏までに三万三〇〇〇人が撤退する。撤退理由としてオバマ米大統領は、(1)国際テロ組織アルカイダの弱体化、(2)治安維持権限を移譲するアフガニスタン軍の増強、を挙げている。

しかしゲリラ闘争を続けるイスラム原理主義組織タリバンは、アフガン北部を中心に健在で、自爆テロや奇襲攻撃を繰り返す。アフガン軍が米軍の穴を埋めるにはまだ荷が重い。にもかかわらずオバマ大統領が撤退に踏み切ったのは、来年秋の米大統領選挙の再選に向け対テロ戦争の実績をアピールする狙いがあるようだ。政治的思惑の先行でコトの本質を見誤ったとまらないことを祈りたい。

欧州財政不安、 ギリシヤから拡大か？

アテネの町が連日デモの波に埋まるなか、ギリシヤ議会は六月末、増税、社会保障の削減、国有財産の売却などの緊縮政策を盛り込んだ財政再建五カ年計画法案を採択した。これを受け欧州連合（EU）は、ギリシヤに対し一二〇億ユーロ（一兆四〇〇〇億円）の融資の実行を決定した。同国は債務不履行（デフォルト）に陥る事態を当面、回避した。

ところが一息ついたのも束の間、今度は米格付け会社がポルトガル、アイルランドの国債の格付けを相次いで引き下げ、投機的とされる水準とした。さらにスペインやイタリアでも国債利回りが急上昇し、ギリシヤの信用不安は南欧諸国に拡大しかねない様相だ。

この漫画のように、船底の穴がギリシヤだけなら、自動車操業でも一生懸命水をかき出し続けられれば、何とかユーロ号は沈まないですむかもしれない。しかしポルトガル、スペイン、イタリアと次々に穴が開いたら、もうお手上げ。ユーロ号の前途は多難だ。



Euro Project in peril by Paresh Nath,
The Khaleej Times, UAE,
July 2, 2011